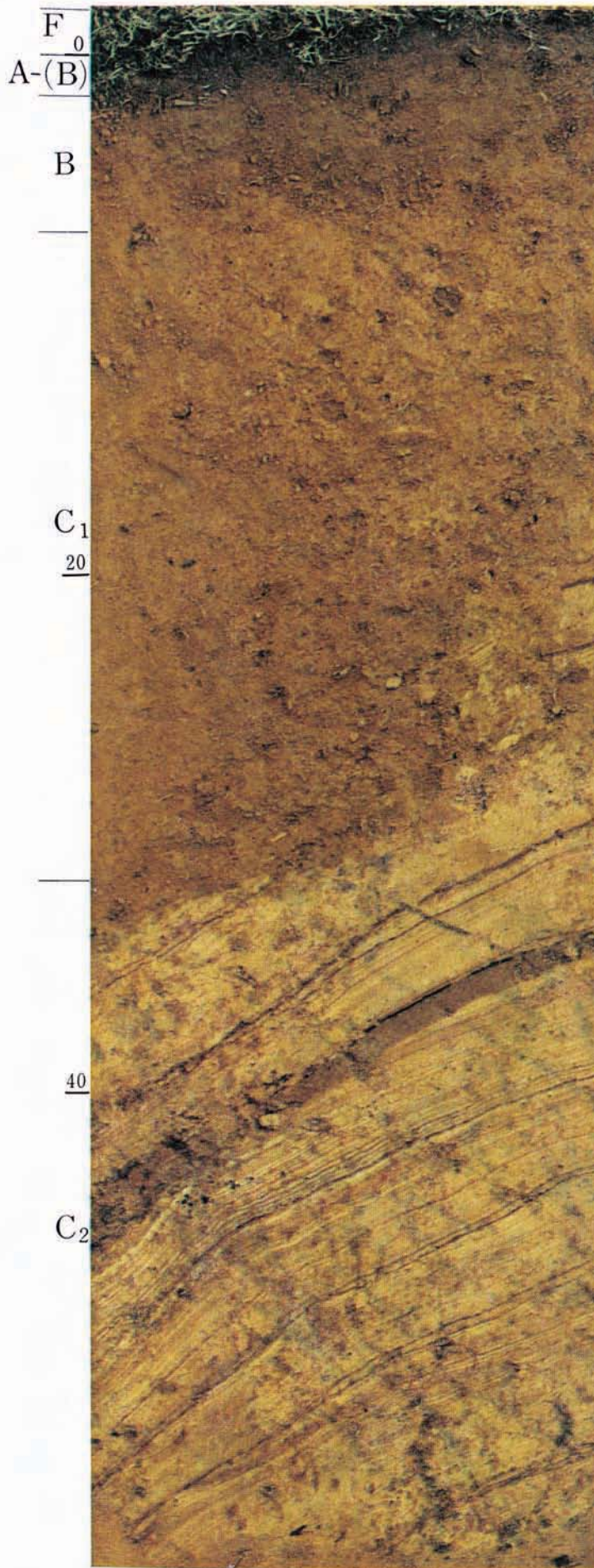


断面 23 Y-Er

黄色土（受蝕型）



母材料：新第三系頁岩の上に花崗岩風化碎屑物被覆

採取地：三重県上野市安場

亀山事業区 51 林班と小班

海拔高：235 m

地 形：山頂緩斜面

方 位：N 5°W

傾 斜：20°

林 相：アカマツ天然生林

断面記載：

F 0.5~1 cm アカマツ等の乾いた腐葉粗に堆積。

A-(B) 2 cm 褐色 (7.5 YR $\frac{4}{3}$)，腐植を含む，埴土，細粒状，軟，乾，白色の菌糸を認む，細根あり，次層との境界は明。

B 8 cm 褐~明褐色 (7.5 YR $\frac{4.5}{6}$)，腐植に乏し，埴土，弱度の粒状一部塊状，軟~堅，乾，細根まれ，次層との境界は明。

C₁ 17~25 cm 黄褐色 (10 YR $\frac{6}{7}$)，腐植に乏し，黄橙色 (10 YR $\frac{7}{8}$) の風化が進んだ岩片および基岩組織が認められる岩片あり，埴土，固結，乾，細根きわめてまれ，次層との境界は明。

C₂ 30 cm+ 黄橙色 (10 YR $\frac{7}{8}$)，風化のすすんだ基岩層。

採取年月日：1965年3月9日

赤色土と同一地域に分布するが、日本本土のものは完全な成層断面をもつものはまれで、地層的な様相を呈するものや未熟な形態を示すものがほとんどである。したがって、一般にA層の発達はあるく、土壌中の腐植の含量はきわめて少ない。酸性が強く、塩基に乏しいやせた土壌で、理化学性も不良である。

これに対して、亜熱帯圏の琉球列島などでは、黄色の土壌は山地帯でもっとも分布が広く、形態的にも変化に富み、これらは微地形、水分環境により褐色森林土と同じように細分できる。

これら気候を異にする地域の黄色系土壌の生成および特性の解明は、今後わが国の森林土壌研究の重要な課題のひとつであろう。

この断面は、一見残積土的な形態をそなえているが、土層の母材は花崗岩質の水成堆積物で、基層の新第三系泥質岩とは異質である。

土層はきわめて浅く、土壌中の有機物もすくなく、強酸性で、塩基にはなはだ乏しい。埴質で粘土鉱物はメタハロイサイトが多い。

天然生のアカマツ林下にアセビ、ヤマハゼ、ネズミサシ、コシダ等が生育しており、赤色土と同様生産力は低く、天然更新によるのが望ましい。



採取地の地形

層 位	C %	N %	C/N	pH (1:2.5)	置換酸度 Y ₁	CEC m.e	置 換 性		Ca/CEC	Mg/CEC
							Ca	Mg		
B	0.4	0.01	40	4.42	19.6	7.36	0.54	0.42	7.34	5.71
C ₁	0.3	tr.	—	4.54	18.2	7.18	0.21	0.47	2.93	6.55
C ₂	0.1	tr.	—	4.60	22.5	7.00	0.26	0.37	3.72	5.29

層 位	土壌中の細粒 (0.2~0.1 mm) の鉱物 100 分比							土壌中の粘土鉱物				
	石 英	長 石	雲 母	角閃石	火 山 ガラス	輝 石	磁鉄鉱	アロフ エン	ギブサ イト	加水ハロイサイト ・ハロイサイト	メタハロ イサイト	14~15 Å 鉱 物
B	26.7	22.4	38.5	1.2	1.9	0.6	8.7	×				++
C ₁	14.0	17.0	62.0	3.0	1.0	0.5	2.5		×	+	++++ ++	
C ₂	7.3	5.5	74.0	4.1	0.9	0.9	7.3			+	++++ ++	